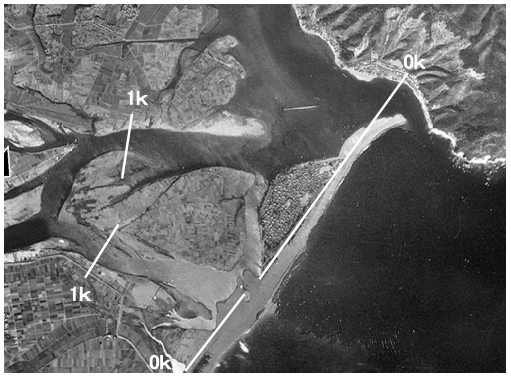
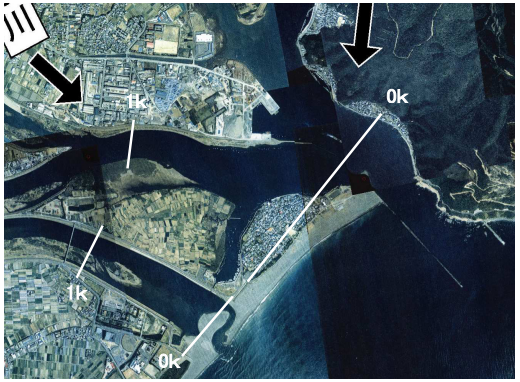
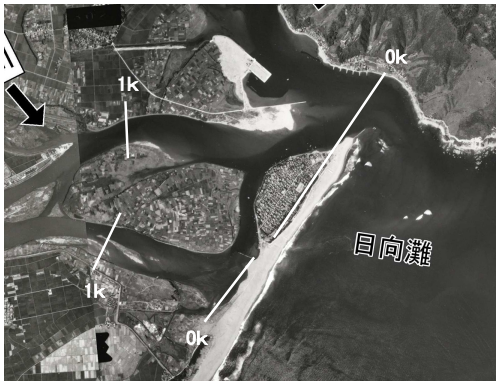
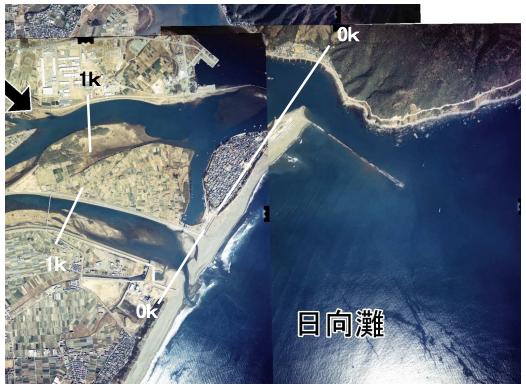
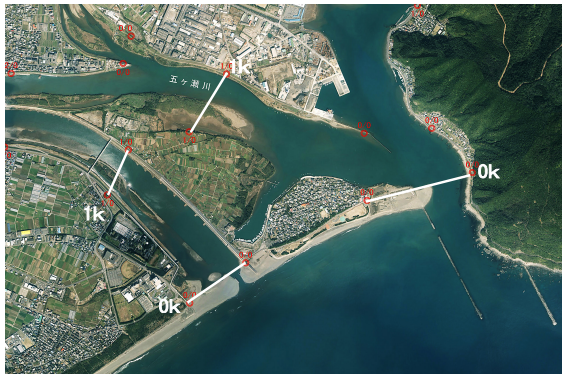
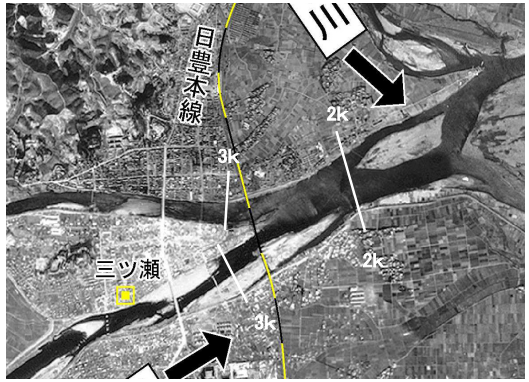
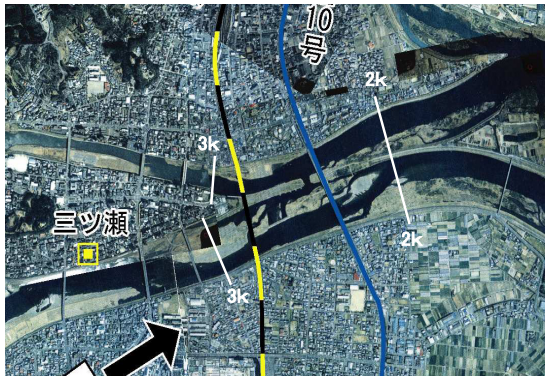
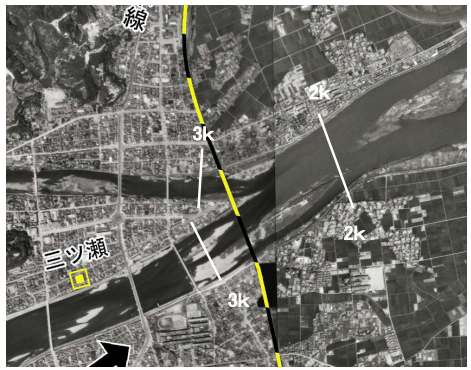
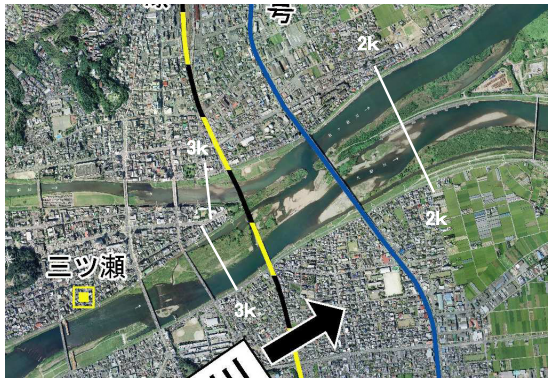
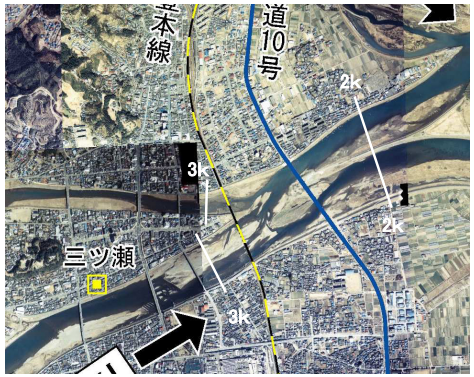
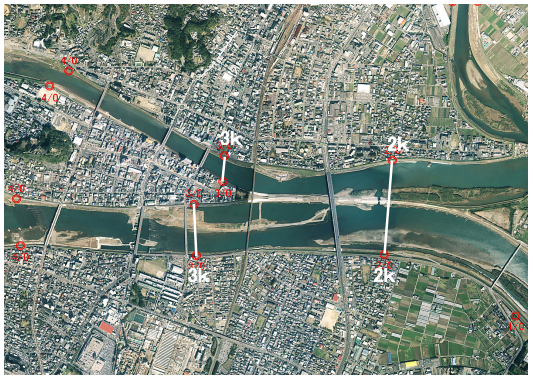
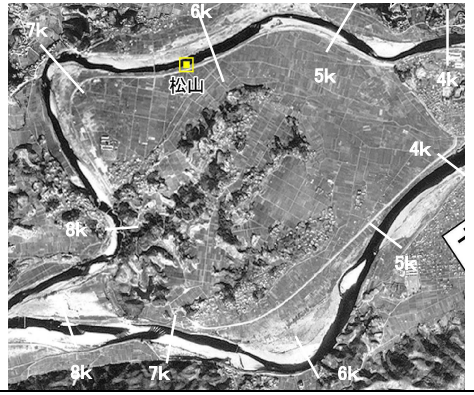
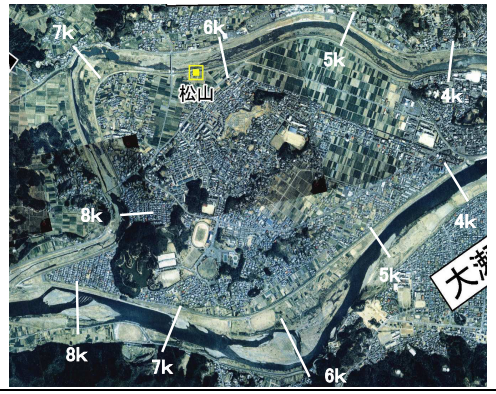
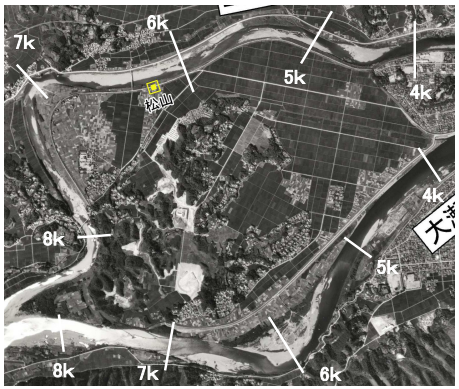
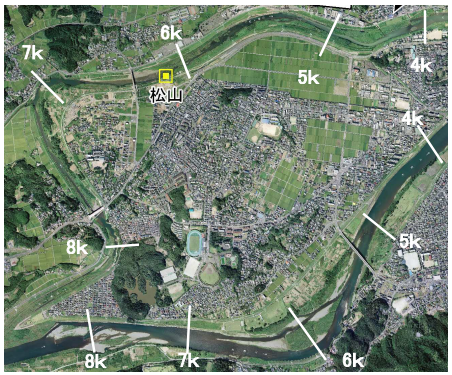
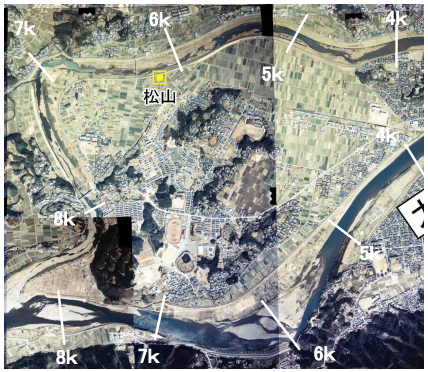
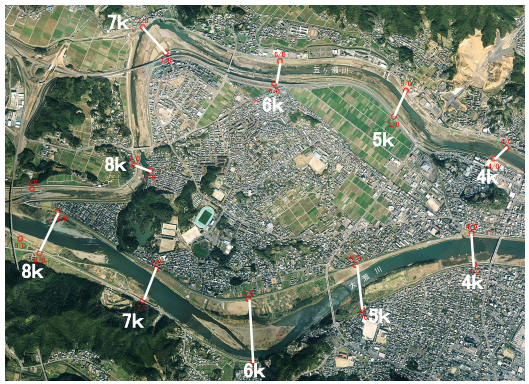
河道の変遷（五ヶ瀬川・大瀬川河口）

年	写真	摘要	年	写真	摘要
昭和20年		・五ヶ瀬川河口に砂州がみられる。 ・大瀬川河口は、完全に閉塞し、方財地区左側から五ヶ瀬川へ合流している。	平成6年		・五ヶ瀬川河口左岸に導流堤が完成。 ・大瀬川河口に砂州がみられるが、わずかに開口している。 ・大瀬川鷺島橋付近右岸側に砂州が発達している。
昭和37年		・五ヶ瀬川河口の砂州は消失。 ・大瀬川河口は完全に閉塞し、方財地区左側から五ヶ瀬へ合流している。	平成13年		・五ヶ瀬川筋は、平成6年と比べほとんど変化なし。 ・大瀬川河口砂州がみられるが、左岸側がわずかに開口している。 ・大瀬川鷺島橋付近右岸砂州が、樹林化している。
昭和49年		・五ヶ瀬川河口右岸に導流堤が完成。 ・大瀬川左右岸ともに築堤が完成し、方財地区左岸から五ヶ瀬川への合流は無し。 ・大瀬川河口砂州がみられるが、わずかに開口している。	平成23年		・五ヶ瀬川筋は、平成6年、13年と比べ、ほとんど変化なし。 ・大瀬川鷺島橋付近右岸の砂州を部分的に掘削し、低水経部を拡幅。

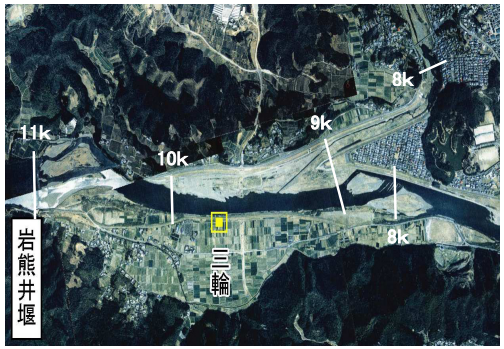
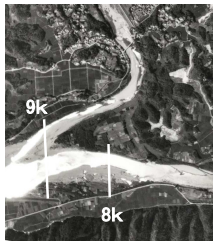
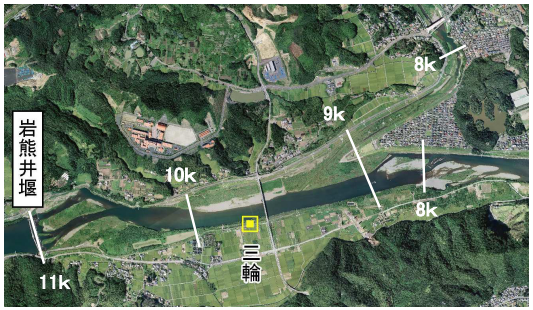
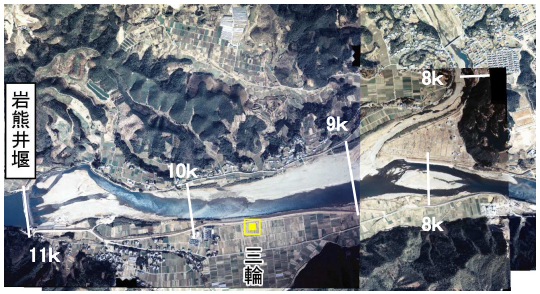
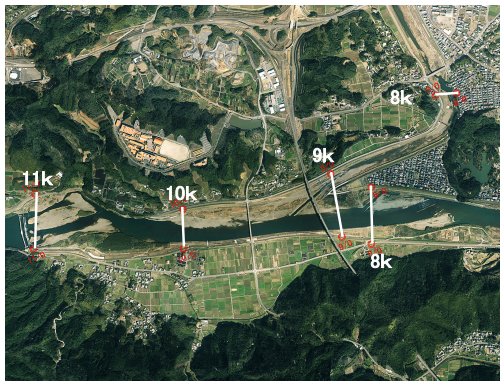
河道の変遷（五ヶ瀬川・大瀬川隔流部）

年	写真	摘要	年	写真	摘要
昭和20年		・五ヶ瀬川と大瀬川が一体で流下している。	平成6年		・国道10号付近の一部分を除きほぼ隔流されている。
昭和37年		・五ヶ瀬川、大瀬川の一体した流下に変化なし。 ・三ツ瀬地点付近の川幅が引堤により広くなっている。	平成13年		・国道10号付近の一部を除いて隔流されている。 ・国道10号付近の右岸側に砂州が発達。
昭和49年		・下流側から隔流堤が築造され、合流部が縮小されている。 ・大瀬川筋の砂州が発達している。	平成23年		・激特攻修により、国道10号下流の低水路部が拡大されている。 ・激特事業により完全に隔流されている。

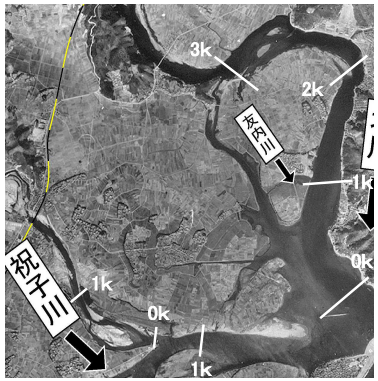
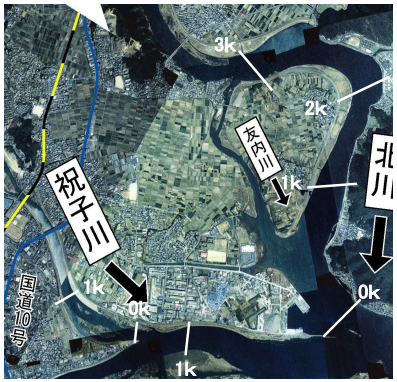
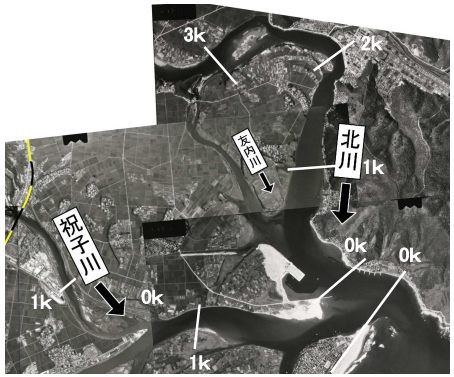
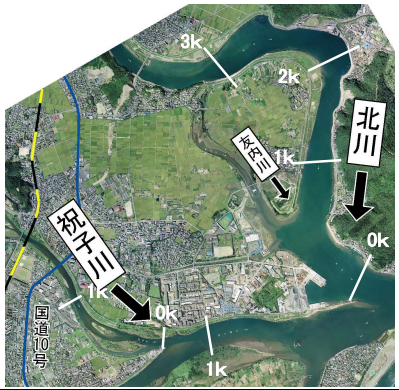
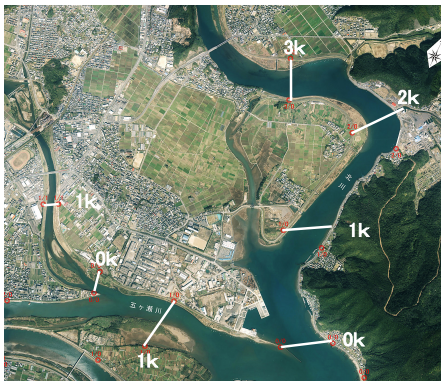
河道の変遷（五ヶ瀬川・大瀬川分派後）

年	写真	摘要	年	写真	摘要
昭和20年		・五ヶ瀬川7k000で大きく湾曲し、右岸側に砂州が発達している。 ・大瀬川6k000で大きく湾曲し、左岸側に砂州が発達している。	平成6年		・五ヶ瀬川7k000付近の土砂堆積及び樹木繁戒が進行している。 ・大瀬川6k000付近の砂州形状が若干変化している。
昭和37年		・五ヶ瀬川、大瀬川ともに、平成20年と比較し大きな変化は見られない。	平成13年		・五ヶ瀬川の低水路の砂州の発達が目立つ。 ・大瀬川6k000付近の中央部に流路が見られる。
昭和49年		・松山橋付近の低水路が土砂堆積により狭くなっている。 ・大瀬川6k000の砂州部の形状が変化している。	平成23年		・激特攻修により、五ヶ瀬川の高水敷掘削を行っている。

河道の変遷（五ヶ瀬川・大瀬川分派前）

年	写真	摘要	年	写真	摘要
昭和20年		・分派前の左岸側砂州が発達している。 ・分派後の五ヶ瀬川大瀬川ともに、同等程度の水路幅となっている。	平成6年		・分派点流頭部が整備されている。 ・試験分流の為、低水部に水路が設けられている。（1m³/s流下） ・分派点の大瀬川筋の土砂堆積が進行。 ・分派後の五ヶ瀬川の土砂堆積が著しい。
昭和37年		・昭和20年と比較し、大きな変化は見られない。 ・分派後の五ヶ瀬川筋の流路がやや左岸寄りとなっている。	平成13年		・三輪地点からの分派点にかけ、左岸側の砂州が発達している。 ・分派後の五ヶ瀬川の土砂堆積が著しい。
昭和49年		・分派後の五ヶ瀬川の土砂堆積が著しい。 ・分派前も流路が右岸側に寄り、五ヶ瀬川には分派していない。	平成23年		・激特攻修により、五ヶ瀬川筋の低水路を拡幅。 ・低々水路を設け、五ヶ瀬川筋への低水分派を実施している。 ・分派後大瀬川左岸の土砂堆積が進行。

河道の変遷（北川・祝子川）

年	写真	摘要	年	写真	摘要
昭和20年		・北川河口右岸の延岡港が整備されておらず、北川河口右岸の川幅は広い。 ・祝子川下流部の砂州が発達している。	平成6年		・北川は昭和49年とほぼ同じ形状である。 ・祝子川下流部の左岸側の低水路が拡大している。
昭和37年		・北川河口右岸側の延岡港の整備が進み、現在とほぼ同じ形状となっている。 ・祝子川は、ほぼ同形状のままである。	平成13年		・北川の川島橋付近左岸の砂州が激特攻修に伴い水面下となっている。 ・祝子川は、平成6年とほぼ同じ形状である。
昭和49年		・北川湾曲部の砂州が消失している。 ・祝子川は同形状のままである。	平成23年		・北川、祝子川ともに平成13年と比較して、ほぼ同じ形状である。